

# 新聞禁止政策日本



### 竹林 征三

富士常葉大学名誉教授  
山口大学時間学研究所客員教授

福島では年間放射線量が20ミリシーベルトに達する可能性のある区域から強制的に避難させられている。1年経過した現在も避難者は2万人超いるという。避難者の心のうちを考えると何とも切ない。

原発事故以来、放射能の恐怖に日本中が必要以上にオロオロ怯えている。その最大の要因は、目に見えないから恐ろしいのである。目に見えれば、適切に怯えることができるかもしれない。目に見えないものは、光の反射である。光は波動である。目に見える光の波動の範囲を可視光線とい

う。可視光線より波長が長い波動や短い波動は見えない。

目に見えないけれども、五官の眼以外のもの四根(耳鼻舌身)で感受できる

ものもある。

①かすかな音はすれども、姿は見えず、音の異変を聴覚で感じる

②眼には見えぬ匂いがする、嗅覚で感じる  
③違いは眼には分からねど食べはわかる。味覚で感じる

④ゾーとする寒気を感じる、触覚で感じる。

五感で感受できないが、第六感(意覚)でなんとなく信用できない人だなあと感じる。人をいくら凝視し

## 目に見えないものに怯える

ても、相手の心の中は見えてこない。だから、相手の悪巧みも見えてこない。相手の心・意図が見えないと、五感以上に不安になってくる。

何かを連想して怯える。例えば、妖怪、幽霊、亡者、お化けなどである。また、身に覚えのある人は、自分の食りの心から恨みを買っているのではという「たたり」に怯える。自分の姿・

形・行動は直接見たことがない(鏡に映る姿は左右が逆の虚像である。自分の裏姿はどのように見えるのか)。一刻先の自分の未来が見えない。これから自分はどうなるのか将来に対する不安に怯える。

見えないものは、不思議で強力なパワーで人に災いをもたらす。不思議なパワーを持ち、まるで生きもの

のようだ。手足もあり、口きもの「もののけ」、妖怪

相手の本心が読めなくて怯える。また、不思議な現象を見ているが、その科学的メカニズムが理解できないものに怯える。

「もののけ」は人の「うわさ」が生み出す。「うわさ」は人の不安の量に比例する。

科学技術の未発達な時代では、人の「うわさ」と「恐ろしさ」が恐ろしい生きもの「もののけ」、妖怪

を生む。たたりに怯える。

科学技術の発達した現状では、未消化な科学知識が不安を煽る。風評と政商が跋扈している。人のうわさがすくばる閉ざされた

社会・小さな村なら、村人ひとりひとりの顔が浮かぶ。しかし、その人の心は読めない。人の心の底が読めないで、憶測が憶測を生む。多くの人が行き交う大都市は、隣の人、袖すり合う

人がどんなことを企んでいるのか一切分からない。疑えば疑うほどどう思えてくる。

かつて京の都は魔都であり、魔物と祟りが行き交う「もののけ」の都であった。現状は日本の都・東京は魔物・腹黒い多くの人がよからぬことを考え、落とし穴の仕掛けをし、人々が災いの孔に落ち込むことを楽しみに見守っている。人の不幸は我が幸せなのである。

そのような魔物が行き交う「もののけ」の都である。目に見えない放射線は恐ろしいと風評を立てる人がいて、風評を煽る人がいて、風評を利用して悪事をたくらむ人がいる。

「もののけ」は永田町周辺にあられる。風評の種を公共のメディアを通して日本中にバラ撒き国民を怯えさせ魔物が跋扈している。

まさに、現在の「もののけ」が跋扈する都市が東京である。

### 所論 諸論